ワクチン情報ステートメント

MMRV ワクチン Vaccine (はしか、おたふく風邪、はしか、水痘): 知るべきこと

Many vaccine information statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報ステートメントは、日本語やその他の言語でご覧になれます。www.immunize.org/vis をご参照ください。

1. なぜ予防接種を受けるのですか?

MMRV ワクチンは、**はしか、おたふく風邪、はしか**、および**水痘**を予防できます。

- **はしか(M)** は、発熱、咳、鼻水、赤目、涙目を引き起こし、その後に全身を覆う発疹が続くことがよくあります。発作(多くの場合、発熱も伴う)、耳の感染症、下痢、肺炎を引き起こす可能性があります。はしかが脳損傷や死に至らしめることはめったにありません。
- **おたふく風邪(M)** は、発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感、食欲不振、耳の下の唾液腺の腫れや圧痛を引き起こします。難聴、脳および/または脊髄被覆の腫れ、睾丸または卵巣の痛みを伴う腫脹、そしてごくまれに死に至る可能性があります。
- **はしか(R)** 発熱、喉の痛み、発疹、頭痛、眼の炎症を引き起こします。半数のティーンエイジャーと成人女性に関節炎を引き起こすことがあります。妊娠中にはしかにかかると、流産する可能性があります または、新生児は深刻な先天性欠損症で生まれる可能性があります。
- **水痘(V)** は、"チキンポックス"とも呼ばれ、発熱、倦怠感、食欲不振、頭痛に加えて、かゆみを伴う発疹を引き起こします。皮膚感染症、肺炎、血管の炎症、脳および/または脊髄被覆の腫れ、および血液、骨、または関節の感染につながる可能性があります。水痘にかかった人の中には、数年後に「帯状疱疹」(HZとしても知られています)と呼ばれる痛みを伴う発疹を起こす人もいます。

MMRV のワクチンを接種した場合、大部分の人にとってその効き目は 生涯有します。米国では、ワクチンと高いワクチン接種率により、これらの病気にかかる人が極めて少なくなりました。

2. MMRV ワクチン

MMRV ワクチンは、**12 か月から 12 歳までの子供**に投与できます。

- 初回接種は生後 12 か月から 15 か月の間
- 2 回目の接種は 4 歳から 6 歳の間

MMRV ワクチンはその他のワクチンと同時に接種されることをもあります。MMRV の代わりに、一部の子供は MMR (はしか、おたふく風邪、はしか)と水痘の別々の接種を受ける場合があります。かかりつけの医療提供者から詳細を入手できます。

3. かかりつけの医療提供者と相談する

ワクチンを接種を受ける人の以下の様子の有無を予防接種提供者にお伝えください。

- MMRV、MMR、または水痘ワクチンを以前に接種した後に**アレルギー反応を起こした**、または**重度で生命を脅かすアレルギーがある**
- **妊娠している**または妊娠している可能性がある—妊娠中の人は MMRV ワクチンを接種すべきではありません。
- **免疫力が低下している**、または**遺伝性または先天性免疫系の問題の病歴を持つ親、兄弟、または姉妹がいる。**
- **打撲傷や出血が起こりやすい状態になったことがある。**
- **(脳卒中、てんかん等の)発作の病歴**がある、またはそのような発作の病歴を持つ**親、兄弟、または姉妹がいる。**
- **サリチル酸塩 を投与されているかその予定がある。**(アスピリンなど)
- 最近 **輸血を受けた、または他の血液製剤を投与された。**
- **結核**持ちである
- **過去4週間に他のワクチンを接種をした**

場合によっては、医療提供者が先の来院まで MMRV ワクチン接種の延期を決定する、または子供が MMRV の代わりに MMR ワクチンと水痘ワクチンを別々に受けることを勧める場合があります。

風邪などの軽度の病気の人は予防接種を受けられることがあります。中等度または重度の病気の子供は、通常 MMRV の接種は、回復するまで待つ必要があります。

かかりつけの医療提供者からさらに情報を入手することができます。

U.S. Department of Health and Human Services
Centers for Disease Control and Prevention

4. ワクチンの副反応のリスク

- 注射による腕の痛み、接種をした箇所の発赤、発熱、および MMRV ワクチン接種後には軽度の発疹が発生する可能性があります。
- MMRV ワクチン接種後に、頬や首のリンパ腺の腫れ、または関節の一時的な痛みやこわばりが発生することがあります。
- しばしば発熱を伴う脳痙攣の発作が、MMRV ワクチンの後に起こることがあります。脳痙攣の発作のリスクは、MMRV の接種後のほうが、低年齢の子供にとっては MMR ワクチンと水痘ワクチンを別々に接種した後よりも高くなります。医療提供者があなたの子供にとって適切なワクチンについてのアドバイスをします。
- 異常な出血やあざを引き起こす可能性のある一時的な低血小板数値などの、非常に深刻な反応が起こることはめったにありません。
- このワクチンは、深刻な免疫系の問題を抱えている人に、生命を脅かす可能性のある感染症を引き起こす可能性があります。深刻な免疫系の問題を持つ人は MMRV ワクチンを接種するべきではありません。

MMRV ワクチン接種後に発疹を発症した場合それは、はしか、またはワクチンの水痘成分のいずれかに関連している可能性があります。水痘ワクチンのウイルスは保護されていない人に移り広がる可能性があります。発疹が出た人は、発疹が消えるまで、乳幼児や免疫力が低下している人に近づかないでください。詳細についてはかかりつけの医療提供者にご相談ください。

水痘の予防接種を受けた人の中には、数年後に帯状疱疹(ＨＺ)になる人もいます。これは実際に水痘に罹った人よりも可能性は大変低いです。

予防接種も含め、医療処置後に気を失う人が時々います。もしめまいがしたり視覚異常や耳鳴りがしたときは医療提供者にご相談ください。

他の薬と同様に、ワクチンが重度のアレルギー反応、その他の重傷、または死亡を引き起こす可能性は非常に低いです。

5. もし深刻な問題が起こったらどうすればよいですか？

ワクチン接種を受けた人が診療所を出た後にアレルギー反応が起こる可能性があります。重度のアレルギー反応(じんましん、顔と喉の腫れ、呼吸困難、心拍数の増加、めまい、または脱力感)の兆候が見られる場合は、**9-1-1** に電話して、その人を最寄りの病院に連れて行ってください。

その他の症状で心配なことがあれば、医療提供者にご相談ください。

副作用は、ワクチン有害事象報告システム (VAERS) に報告する必要があります。.通常はあなたの医療提供者がこの申告をしますが、ご自分で行うこともできます。VAERS のウェブサイト**www.vaers.hhs.gov** にアクセスするか、**1-800-822-7967** までお電話ください。VAERS は反応を報告するためのものであり、VAERS のスタッフは医学的アドバイスを提供しません。

6. 全国ワクチン傷害補償プログラム

全国ワクチン傷害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンによって負傷した可能性のある人々を補償するために作成された連邦プログラムです。予防接種による傷害または死亡の申し立てに関する請求には、提出期限があり、最短 2 年になる場合があります。VICP の Web サイト **www.hrsa.gov/vaccinecompensation** にアクセスするか、**1-800-338-2382** に電話して、プログラムと請求の提出について学習してください。

7. 詳細を知るにはどうすればよいですか？

- あなたの医療提供者にお聞きください。
- 最寄りのまたは、州の健康局にお電話してください。
- ワクチンパッケージの挿入物と追加情報については、食品医薬品局 (FDA) のウェブサイトをご覧ください **www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines**。
- 疾病対策予防センター (CDC) にご連絡してください。
  - 以下に電話 **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または、
  - 以下の CDC のウエブサイトをご参照ください。**www.cdc.gov/vaccines**.

Japanese translation provided by California Department of Public Health, Immunization Program